

石山寺と瀬田唐橋、建部大社を訪ねて

企画委員会

1. 日時 2025年 7月11日(金)

前日午後5時気象庁予報で「滋賀県南部」の6:00～18:00

の降水確率50%以上で中止

2. 集合場所時間 京阪電車石山寺駅前広場

3班、4班 9:45、1班、2班 10:00

3. コース (3班、4班は次の通り、1班2班は15分遅れ)

京阪電車石山寺駅9:45→石山寺東大門10:15(10:30)石山寺ボランティアガイドと合流。

石山寺境内と陣内の案内90分 11:45～12:00ガイド終了→境内・無憂園で昼食30分。

12:45頃から午後の散策。徒歩15分京阪石山寺・蛍谷公園13:00→瀬田川ぐるりさんぽ道
(瀬田川沿いを歩く)→13:40瀬田の唐橋→(瀬田橋竜宮)13:50→徒歩10分

14:00 建部神社30分・14:30 一旦解散→徒歩15分京阪電車唐橋前駅 14:45

石山寺見学後(短縮コースは京阪石山寺駅へ)

瀬田唐橋見学後(短縮コースは京阪唐橋前駅へ)

4. 持ち物、

飲み物、弁当、雨具他を準備、寒さ対策

5. 標準アクセス

3班、4班

JR 大阪 8:36→高槻8:52→京都 9:07→石山9:20乗り換え京阪石山 9:29→石山寺 9:33

1班、2班

JR 大阪 8:56→高槻9:12→京都 9:26→石山9:40 乗り換え京阪石山 9:46→石山寺 9:50

京阪電車は約10分間隔であります。

6. 説明

石山寺(短縮コースは京阪石山寺駅へ)

西国三十三所観音霊場の第13番札所。紫式部が源氏物語の構想を得たところとして名高い。

聖武天皇が東大寺大仏を造立するため黄金を良弁僧正に探させたことが機縁となって天平時代に創建されたと伝えられ、観音信仰による石山詣と、学問と源氏物語の寺として、奈良時代・平安時代以来の長い歴史を持ち、広大な寺域と多くの堂塔伽藍を誇る近江有数の寺院です。戦国時代の天正元年(1573)、足利氏最後の將軍義昭が石山寺に陣を構えて、織田信長と戦って敗れ、寺領五千石を失い、兵火によって損害も受けますが、県下最古の本堂、源頼朝ゆかりの多宝塔、東大門、鐘楼など主要な伽藍は災厄を免れました。豊臣秀吉の時代になって、寺領の回復が行われ、淀殿の寄進による伽藍の再興がありました。淀殿は近江国小谷城主浅井長政の娘で、数奇な生涯を辿りましたが、最後に秀吉の側室となり、慶長七年(1602)石山の堂塔伽藍再興を企て、多くの建造物・仏像などの再興・修理を行いました。現在の石山寺の姿はこの時に出来上がったものが基礎になっています。江戸時代以来、皇室・徳川將軍家等の庇護を受けつつ、信仰と学問の寺として大きな存在を保って現代に至っています。四季折々の境内の美しさも見逃せません。

アクセス JR 琵琶湖線石山駅からバス 20 分、京阪電車石山寺駅から徒歩 10 分



京阪石山寺駅・蛸谷公園から瀬田川ぐるりさんぽ道

瀬田の唐橋まで瀬田川沿いを歩きます。冬は渡り鳥(水鳥)の観察が出来ます。

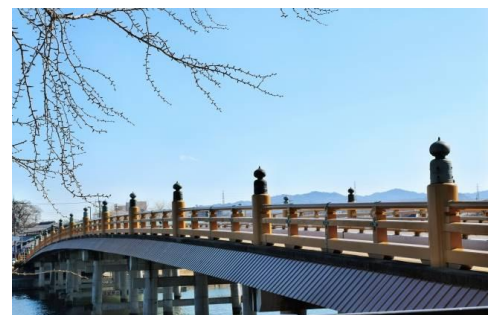


瀬田唐橋(短縮コースは京阪唐橋前駅へ)

近江八景「瀬田の夕照」(せたのせきしょう)の主題である「瀬田唐橋」は、別名「瀬田橋」や「長橋」とも呼ばれ「唐橋を制するものは天下を制する」と言われ、古来より京都ののど元を握る交通・軍事の要衝として重視され、瀬田橋が戦の歴史舞台になって千八百年になりますが、特に有名なものは、古くは、大津京が幻の都となった大友皇子と大海人皇子(おおあまのおうじ)の『壬申(じんしん)の乱』をはじめ、『寿永の乱』、『承久の乱』、『建武の乱』など幾多の戦乱の舞台ともなりました。

織田信長の瀬田橋の架け替えは、比叡山焼き討ちの4年後、天正三年(1575)に諸国の道路修理を命じ関税を免除するとともに、瀬田城主、山岡景隆と木村次郎左エ右衛門を奉行に任命し、近江の朽木などから木材を調達し、長さ百八十間(約350m)、幅四間(約7m)の一本橋をわずか3ヶ月という突貫工事で架け替えさせたといわれています。

龍王宮秀郷社／雲住寺 百足供養堂【りゅうおうぐうひできとしや／うんじゅうじ むかでくようどう】



京の都にとって軍事上の要衝、瀬田唐橋にまつわる伝説は、依藤太の百足退治で、伝承地が唐橋の東端にある龍王宮秀郷社と雲住寺である。この境内には藤太によって退治された百足供養堂がある。武勇誉れ高き武将の依藤太は、ある時、瀬田の橋の真ん中で大蛇がいる。藤太は意に介さず、大蛇の背を踏みつけて悠々と橋を渡ったのである。すると突然目の前に乙女が現れた。乙女は橋の下に住む龍神であり、今、三上山を七巻半もする大百足によって苦しめられているので、その武勇を持って退治をしてほしいと懇願した。それを聞いた藤太は承諾し、早速3本の矢を持って、一矢、二矢を放つも効果無く、三矢の矢尻に唾液を付けて百足の左巨眼を射抜き退治した。(伝説の真意は藤原秀郷公が平安時代中期の武将、平将門が京の都攻め上がる反乱を討した。)



建部大社

近江一之宮「建部大社」は、景行天皇四十六年日本武尊(やまとたけるのみこと)の妃、布多遲比売命(ふたじひめのみこと)が、近江神崎郡建部郷に日本武尊の神霊を祀ったのがはじまりといわれ、そののち、天武天皇白鳳四年4月に日本武尊の子孫、建部公安麿(たけべのきみやすまろ)が国司の命により、近江国府がおかれていた瀬田の地の大野山に社殿を造営しました。さらに天平勝宝七年(755)には山麓の神領に移り、近江一之宮といわれるようになり、貞応二年に現在の地に移りましたが、その時、拝殿前の三本杉は、一夜のうちに生えたといわれ、ここの神紋になっています。瀬田唐橋同様、ここも交通の要所となっているところなので兵火にもあっています。江戸時代には、膳所藩から二十石の領地が保障され、境内は東西六十四間(約116m)、南北三十四間(約61m)で、宮山四町が年貢免除の特権を与えられた除地となっていました。



アクセス JR 琵琶湖線石山駅から徒歩 20 分、京阪電車唐橋前駅から徒歩 15 分